



## ♪CONTENTS♪

- 森の人インタビュー（西田浩之さん）
- 北山杉・里山コンサート
- 第6回ライブ・アンド・フォレスト
- 連載（森林・林業小話 27）
- 本仕込み見学会
- 編集後記
- 第40回全国育樹祭

No.38（2017.2.8 発行）

# 森の人インタビュー

## 第14回

京都府の南西部にある長岡京市浄土谷柳谷に事務所を置く西田林業事務所は、2009年2月創業の若い林業事業体です。代表の西田浩之さんに西田林業事務所の仕事内容などについて伺いました。現在、西田林業事務所は、30歳代の男子1名を雇用し、地元の長岡京市の森林整備や造園業者などからの依頼による特殊伐採を主な業務にしています。

代表の西田浩之さんは桂生まれの向日市育ち、根っからの地元の方です。学生時代に美術系の学校で学びましたが、思うところがあって、中退してニューヨークに旅をしたそうです。帰国後はアートとテクノロジーの融合を図るプロジェクトに係わったことから、植物や森に強い関心を持つようになったとのこと。その後、森林を管理する林業について学ぼうと磨き丸太生産業者や森林組合に5年ほど勤務して、林業の現場を経験し、地元の乙訓で独立されました。

西田さんから、「独立した時は、森林の手入れを主な仕事とし、林地を入手して自伐林業を手がけたいという構想を持っていましたが、当初は信用力もなく、仕事の依頼がまったくない状態でした。たまたま、リーマン・ショック後の雇用促進事業によって2名を雇用し、長岡京市森林組合から森林整備の仕事を受注したことが最初の大きな仕事でした。この業務を通じて、長岡京市の関係者との面識ができたことは大きな成果でした。その後は、雇用者を含め、会社の仕事を探す営業が私の一番の業務になりました。特殊伐採もそのような関係で手がけるようになり、寺社や個人の高齢樹伐採の実績を積んでいます」とお話しして下さいました。

今後の西田林業事務所としては、従来の針葉樹の育成による儲ける林業ではない、新たな林業経営、森林作業の形を模索しているそうです。そのために、2005年6月に設立された西山森林整備推進協議会と協力

しながら「西山森林整備構想」を実践的に担う林業事業体として能力と業務を拡充したい。特に、森林作業で使用する道具の開発、森林整備や森林作業での体の動かし方などを記録し、生物多様性などに配慮した豊かな森林を育成する施業の仕方を編み出していきたいと熱く語っていただきました。（白石）



冬の装備をした西田さん



獣害防止柵のメンテナンスの光景。設営後2年で細根が伸びてきています。

## 第6回ライフ・アンド・フォレスト



たくさんの人が詰めかけた会場

2017年1月7日、キャンパスプラザ京都にて、第6回ライフ・アンド・フォレストを開催しました。今回のテーマは「広葉樹のある暮らし～森のデザイン、木のデザイン～」ということで、3人の方にご講演いただきました。

初めに講演してくださったのは、有賀建具店の有賀恵一さん。広葉樹を利用した建具、家具作りについて紹介されました。広葉樹は樹種によって色合いや性質が異なるため、「適材適所」を心掛けているそうです。元々はお客さんからのリクエストで、カラフルな家具や建具をつくるようになり、今では職人さんが樹種の並べ方をそれぞれの感性で決めています。演題の横には有賀さんが持ってこられたドアが置かれ、フロアから見られるようになっており、会場入口に設置した受付の横にも見事な薬筆筒がサンプルとして並べました。

次に講演されたのは、根尾開発代表取締役の小澤建司さん。根尾開発が行っている人材育成、販路開拓、地域連携についてお話されていました。人材育成に力を入れているようで、なんと小学生の息子さんにもユンボを運転させているのだとか。自分で植えた苗は地拵えから伐採まで責任を持つ、という話が印象的でした。自社で出荷した広葉樹は「Neo Woods」というブランドで、オークビレッジが製品の販売を担当しているそうで、川上から川下への流通にも関わっておられます。

最後に講演されたのは、(株)Hibanaの松田直子さん。松田さんは、寺町二条にある「京都ペレット町家ヒノコ」にて、木質バイオマスの利用を進める活動をしておられます。火を前にするとコミュニケーションが増加すること、木から燃料をとることで里山を再生できることなど、新鮮な発見が多くありました。

「広葉樹って針葉樹の対義語でしょ」くらいの認識しかなかったことを深く反省しています。今後、広葉樹がまず



パネルディスカッションで小澤さんが発言中



受付横に置かれた有賀さん持参のカラフルな薬筆筒など

まず活躍すること間違いなしです。

シンポジウムの後半では、まず高部圭司先生(京都大学農学研究科/NPO 法人才の木)による広葉樹と針葉樹と違いについての木材組織学的な話題提供がありました。それに続いて、三人の登壇者、高部先生、コーディネーターの岩井有加さん(当会理事)を交えて、パネルディスカッションが開催されました。広葉樹に関して、それぞれの視点から貴重な話をいただきました。写真ではわからないですが、パネラーのみなさんは有賀さんが持ってきた椅子に座っています。

パネルディスカッションではとりわけ「広葉樹のある暮らしを実際の生活で体現するにはどうしたらよいか」ということを中心にいろいろな話が展開されました。

3人の登壇者が共通してお話されていたのは、「身近なものとして木を取り入れたらよい」ということでした。確かに、よく使う道具や、大切な家族と暮らす空間が木からできていたら、なんと心地よいだろうかと気づかされました。

一口に広葉樹と言っても、林業、ものづくり、エネルギーの視点からみるとやはり様々な顔を持っていることを知ることのお話ばかりでした。シンポジウムのテーマにあるように、「広葉樹のある暮らし」を是非実現させていきたいです。(丸山・小亀)

## 本仕込み見学会に参加しました

9月10日(土)に中源と共催で開かれた「本仕込み見学会」に参加しました。中源の中田さんからお話を聞いたり、皮剥きや丸太磨きを体験したりしました。

京都の北山で伝えられてきた林業の伝統技法である本仕込みは、今ではほとんど行われていません。しかし、中源の所有山林では今年に1回だけ本仕込みで続けていて、その技術は次の世代に引き継がれようとしています。

案内していただいた林の中で、切った木を立て掛けて乾燥させている様子は非常に印象深い光景でした。皮剥きを体験した後には、親方に山の手入れを続けることがいかに大事なのかというお話をうかがいました。

本仕込みだけでなく、白杉や台杉も見学しました。白杉は、近くの神社にある大きな杉の木で、北山の母樹として尊ばれているそうです。台杉は、一つの株から複数の幹が生えている、垂木用の栽培方法で、短いサイクルで材を得られる利点を持つというお話でした。(青山)



立ったまま皮むきをした北山杉

## 育樹祭に参加しました

10月9日(日)に第40回全国育樹祭が開催されました。この育樹祭で「山と住文化の研究会」が木質テントの展示をしました。私を含めた事務局員は、このテントの製作ワークショップの一部に参加しました。テントは従来のような鉄とビニール製ではなく、大部分は自然素材



門型フレームが連なった木質テント。椅子と机も木製。

を用いています。それは、木製の門型フレーム、部材固定のための荒縄縛り、杉皮を使った屋根です。

私は杉皮の表面仕上げの作業に参加しました。皮むき用のピーラーのような道具で杉の薄皮をはいで表面の苔や汚れを取るのです。ヤニが出てきて手や服にくっつき、なかなか大変でした。しかし、ピーラーで野菜の皮むきをするかのように気持ちよく薄皮がむけ、仕上がりは杉の赤身が見えて非常に美くなりました。

育樹祭前日には組み立て作業をし、テントを円状に配置して休憩所にしました。これまで見たことないテントの姿は圧巻でした。木質化するという活動が全国で広がれば良いと感じました。この貴重なプロジェクトに関われたことをうれしく思っています。(衣笠)

## 北山杉・里山コンサートに参加しました

11月5日に第4回北山杉・里山コンサートが行われました。例年に比べ少し遅い時期に行ったため肌寒い中行われましたが、この時期としてはなかなか暖かい日になりました。

客席は北山丸太を利用しており、贅沢な椅子となっております。

演奏はカフェマヌーシュのお三方で、ジプシー・スウィングという管楽器を使わないスタイルのジャズのトリオです。とてもお洒落でかつ熱い演奏で聞いていて圧倒されるほどでした。

また休憩時には職人の方が北山杉の枝打ちを披露してくださいました。

10m以上の高いところまで足にはめた器具で登り、枝を次から次へと落とし、そのまま次の木に飛び移る(!)様子は圧巻でした。北山杉は細く長いのが特徴なので高く

まで登ると当然大きくなり、下から見ているだけで怖かったです。

そのほか、立木の伐倒も行いました。倒す方向にはゴムの受けとクッションがあり、普通の伐倒とは異なっていました。これは倒れるときの衝撃で丸太にする北山杉が傷つくのを避けるためだそうです。知恵を感じました。

このような山の中で素晴らしい演奏を聞くことができるという他ではない経験ができました。この演奏会を開くにあたって多くの方に協力していただきました。おかげで素晴らしいコンサートにすることができました。ありがとうございました。(瀬戸山)



北山杉内に置いた丸太に座る参加者の皆さん

❖連載❖ (森林・林業小話 27)

### 木質ペレット生産の増え方にびっくり

薪や木炭といった「伝統的な」燃料以外では、オガクズを熱と圧力で押し固めた木質ペレットの生産量が近年目立って増えています。森林・林業白書などによると、2003年の3,800トンから2014年の12万6,000トンへと10年ほどで約33倍、142工場まで拡大しました。かつて関西では、2002年に設立された大阪府高槻市の1工場だけでしたが、2014年には奈良を除く関西の2府3県すべてに生産業者があります。全国的にはなぜか沖縄県に国内最大規模の工場があるようで、岡山、宮崎

が続いています。それでも木質ペレットは国内生産量よりも輸入量のほうが大きく、例えば火力発電所の混焼にカナダ産を用いている場合があります。個人的には、2000年前後から始まった「バイオマスブーム」はいずれ収束すると思っていただけに、ある程度は定着してきた様子に感慨もひとしおです。課題は、ストーブ用の燃料だけだと冬場にしか需要が見込めないことです。温浴施設では薪ボイラーが増えてきており、今後は競合してくるかもしれません。<野瀬>

## 京都・森と住まい百年の会 会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものになることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO 法人京都・森と住まい百年の会をご紹介ください。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。

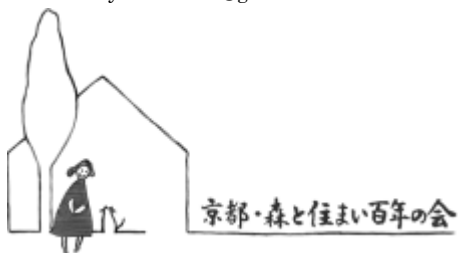
ホームページ<<http://www.kyoto100.com/>>

ブログ<<http://kyotos100.blog102.fc2.com/>>

〒604-0931 京都市中京区寺町二条下ル榎木町 98-7

FAX : 050-3309-6365

E-mail: [kyoto100nen@gmail.com](mailto:kyoto100nen@gmail.com)



### 編集後記

2016年後半には下記のイベントに参加しました。  
伏見・お城まつり (10月16日)、長岡京市環境フェア (11月19日)、京都環境フェスティバル (12月10、11日)

